

素敵な笑顔で

小児科病棟で笑顔を絶やさず、明るく元気に働く看護師になるのが私の夢であり目標です。十年後の私は、予定では小児科病棟のある総合病院で働いています。子どもたちは様々な病気を抱えていますが、みんなの目は輝き、希望を持って一日一日を過ごしています。

私が看護師に憧れ始めたのは、小学校六年生の時でした。インフルエンザウイルスが腎臓に入ってしまい体全体に悪影響を及ぼしたため、二、三週間入院することになったのです。小学生の私にとって、とても心細いものでした。そんな時、私を担当してくれたのは、二人の若い看護師でした。二人共笑顔が印象的で、とても優しく気遣ってくれました。特に怖がっていた採血の時は、私の気持ちが紛れるようにたくさん話しかけてくれました。退院する頃には、看護師が私の憧れの職業になっていました。

「優衣の笑顔はママを幸せにしてくれる。」

この言葉は、今は亡き母が残してくれたものです。二人だけで過ごした最期の時間、病室のベッドで私の手を握りながら優しく穏やかに言った母の顔をいつも思い出します。母が亡くなって二年半が経過した今でも、母の素晴らしさに気づくことがあります。抗がん剤の副作用で強烈な頭痛と吐き気に襲われたときも「辛い、苦しい」といった弱音は決して吐きませんでした。どんなことがあっても笑顔を絶やさなかった母は、その場にいるだけで周りの人を包み込んでしまう、太陽のような存在でした。

「どうしてママはそんなにずっと笑顔でいられるの？ 疲れない？」

ある時母に投げかけました。自分とは正反対の母に対する嫉妬から出た言葉だったかもしれませんが。母は驚いた顔をしましたが、少し経ってからいつもと変わらぬ表情で優しく

「無理して笑顔でいるわけじゃないよ。優衣が笑顔でいてくれるだけでママは幸せな気持ちになれるんだよ。」

と答えてくれました。母の笑顔は私の笑顔で成り立っているということ、私の笑顔が母の気持ちを救っていたのだということに気づかされました。と同時に、母がいつまでも笑顔でいられるように私も笑顔でいたいと強く思うようになったのです。

十年後の私へ。あなたが暮らしている世界は今、医療も進歩して難しい病気も治療可能になっていることでしょう。新型コロナ感染症もとっくの昔に終息し、全員がマスク無しで思いっきり笑い会える状況になっていることでしょう。そして、今日も私は子供たちに元気を与えているはずです。素敵な笑顔で。